

各 位

株式会社三十三総研

『生成 AI の使用状況に関する調査』の実施について

標記の件、下記の通り調査結果を取りまとめました。

記

1. 調査の趣旨

AI の性能が飛躍的に向上したことで、様々なコンテンツを生成できる AI が誕生した。その中でも生成 AI(テキスト、画像、音声などを自律的に生成できる AI 技術)は 2022 年の OpenAI による対話型 AI「ChatGPT」の発表を契機に、特に注目された分野であり、ChatGPT はわずか5日で 100 万ユーザーを獲得するなど急速に普及している。そこで、(株)三十三総研では、個人 500 名(三重県在住、男・女、20 代～60 代の各世代 100 名ずつ計 500 名)を対象に、性別・年代別に、**生成 AI を使用しているか、生成 AI に持つイメージ**などを明らかにすることを狙いとし、WEB を通じた個人アンケート調査を実施した。

2. 調査方法

- ・調査対象者 三重県在住、男・女、20 代～60 代の各世代 100 名ずつ 計 500 名
- ・調査方法 インターネットによる調査
- ・調査時期 2025 年2月7日～2月9日
- ・回答状況 有効回答 500 名
- ・設問 全4問

[回答者の内訳]			(人)
年齢	男性	女性	計
20代	50	50	100
30代	50	50	100
40代	50	50	100
50代	50	50	100
60代	50	50	100
計	250	250	500

3. 設問内容

- Q1 生成 AI を使用していますか
 Q2 生成 AI を使う目的は
 Q3 生成 AI を使わない理由は
 Q4 生成 AI に持つイメージは

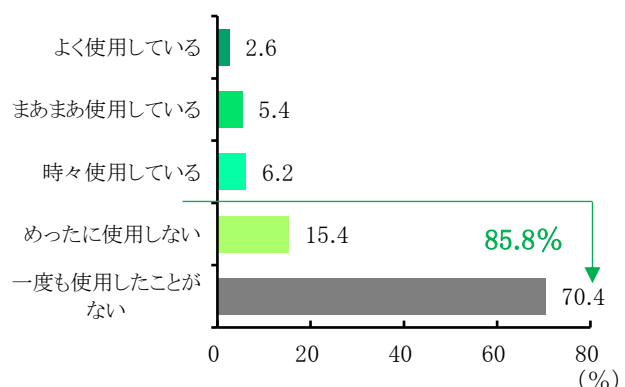
4. 調査結果のまとめ ※まとめでは主要な選択肢を抜粋

生成 AI の使用状況

(Q1・生成 AI の使用状況について「n=500」)

8割超の人々が生成 AI をめったに使用しない、一度も使用したことがないと回答

「よく使用している(毎日)」が 2.6%、「まあまあ使用している(週3回程度)」が 5.4%、「時々使用している(週1回程度)」が 6.2%、「めったに使用しない(一度使用した程度ではぼ使用していない)」が 15.4%、「一度も使用したことがない」が 70.4%。「一度も使用したことがない」が7割、「めったに使用しない」を含めると8割超が使用していないと回答。【Q1】

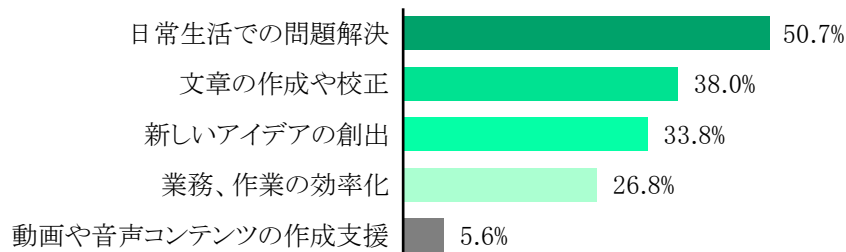


生成 AI の使用目的

(Q2・生成 AI の使用目的について【Q1でよく使用している、まあまあ使用している、時々使用していると回答した方】「n=71」 ※複数回答)

使用目的は日常生活での使用が5割超で最多

「日常生活での問題解決」が 50.7%、「文章の作成や校正」が 38.0%、「新しいアイデアの創出」が 33.8%と上位に。【Q2】

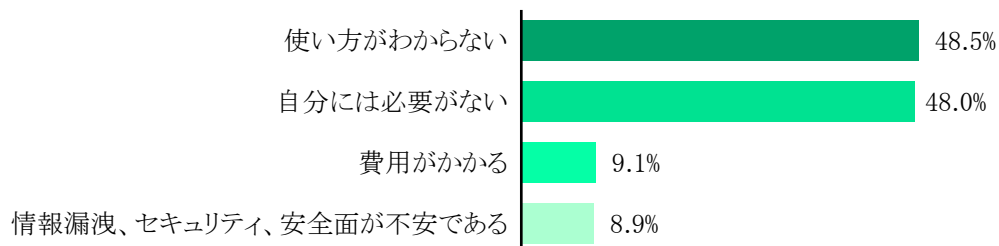


生成 AI を使用しない理由

(Q3・生成 AI を使用しない理由について【Q1でめったに使用しない、一度も使用したことがないと回答した方】「n=429」 ※複数回答)

使い方がわからない、自分には必要がないが5割弱

「使い方がわからない」が 48.5%、「自分には必要がない」が 48.0%、「費用がかかる」が 9.1%、「情報漏洩、セキュリティ、安全面が不安である」8.9%が上位に。【Q3】

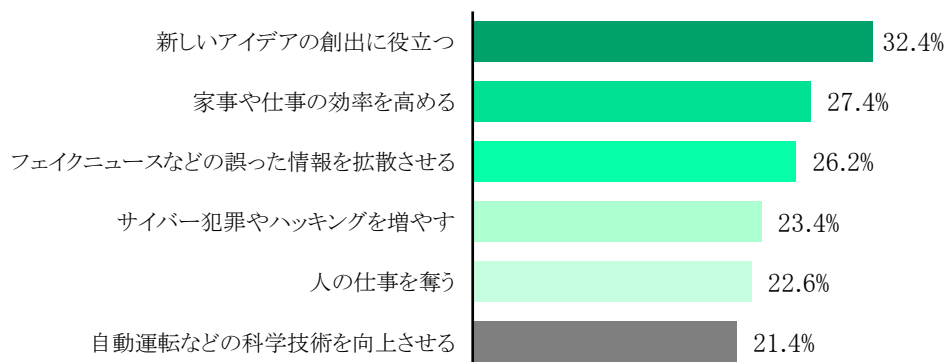


生成 AI に持つイメージ

(Q4・生成 AI に持つイメージについて「n=500」 ※複数回答)

ポジティブなイメージが上位二つを占めたものの、ネガティブなイメージも上位に

「新しいアイデアの創出に役立つ」(32.4%)、「家事や仕事の効率を高める」(27.4%)などのポジティブな回答が上位二つを占めた一方、「フェイクニュースなどの誤った情報を拡散させる」(26.2%)、「サイバー犯罪やハッキングを増やす」(23.4%)などネガティブな回答も上位にみられた。【Q4】



5. 見解

三重県では8割超の人々が生成 AI をほとんど使用していないと回答 使用人数のさらなる増加には使用方法の普及やネガティブなイメージの払拭がカギ

①多くの人は生成 AI をほとんど使用せず

今回の調査では、生成 AI は未だ多くの人々の生活には普及していないことがわかった。生成 AI の使用状況については、全体の8割強の人々が「めったに使用しない」、「一度も使用したことがない」と回答し、人々が生成 AI をほとんど使用していないことが明らかとなった。

②生成 AI の主な使用目的は日常生活での問題解決

職業別では会社員(一般職員)が最も多く使用

生成 AI を使用したことがある人々に使用目的を聞いたところ、5割程度が「日常生活での問題解決」、4割弱が「文章の作成や校正」、3割強が「新しいアイデアの創出」と回答した。使用している人の多くは日常生活で使用している可能性がある。後述の通り、使用している人々を職業別にみると、会社員(一般職員)が全ての選択肢で最も回答割合が高くなったほか、会社員(管理職)も各選択肢で1割程度の回答となるなど、会社員の間で生成 AI の使用が広がっている可能性が示唆される結果となった。

③生成 AI を使用しない主な理由は使い方がわからない、自分には必要がない

また、生成 AI を使用したことがほとんどない人々に使用しない理由について聞いたところ、5割弱が「使い方がわからない」、「自分には必要がない」と回答した。生成 AI の使用方法がわからない人が多いことや使用することに対するメリットを多くの人が感じていないことが明らかになった。

④生成 AI に持つイメージはポジティブなイメージとネガティブなイメージが混在

さらなる使用割合の増加にはネガティブなイメージの払拭が必要な可能性

生成 AI に持つイメージについては、3割超が「新しいアイデアの創出」、2割強が「家事や仕事の効率を高める」、「フェイクニュースなどの誤った情報を拡散させる」、2割程度が「サイバー犯罪やハッキングを増やす」、「人の仕事を奪う」、「自動運転などの科学技術を向上させる」と回答した。ポジティブなイメージを持つ人々が多い一方、ネガティブなイメージを持つ人々も一定数おり、使用割合のさらなる増加にはネガティブなイメージの払拭が必要な可能性が示唆される結果となった。

6. 設問別サマリー

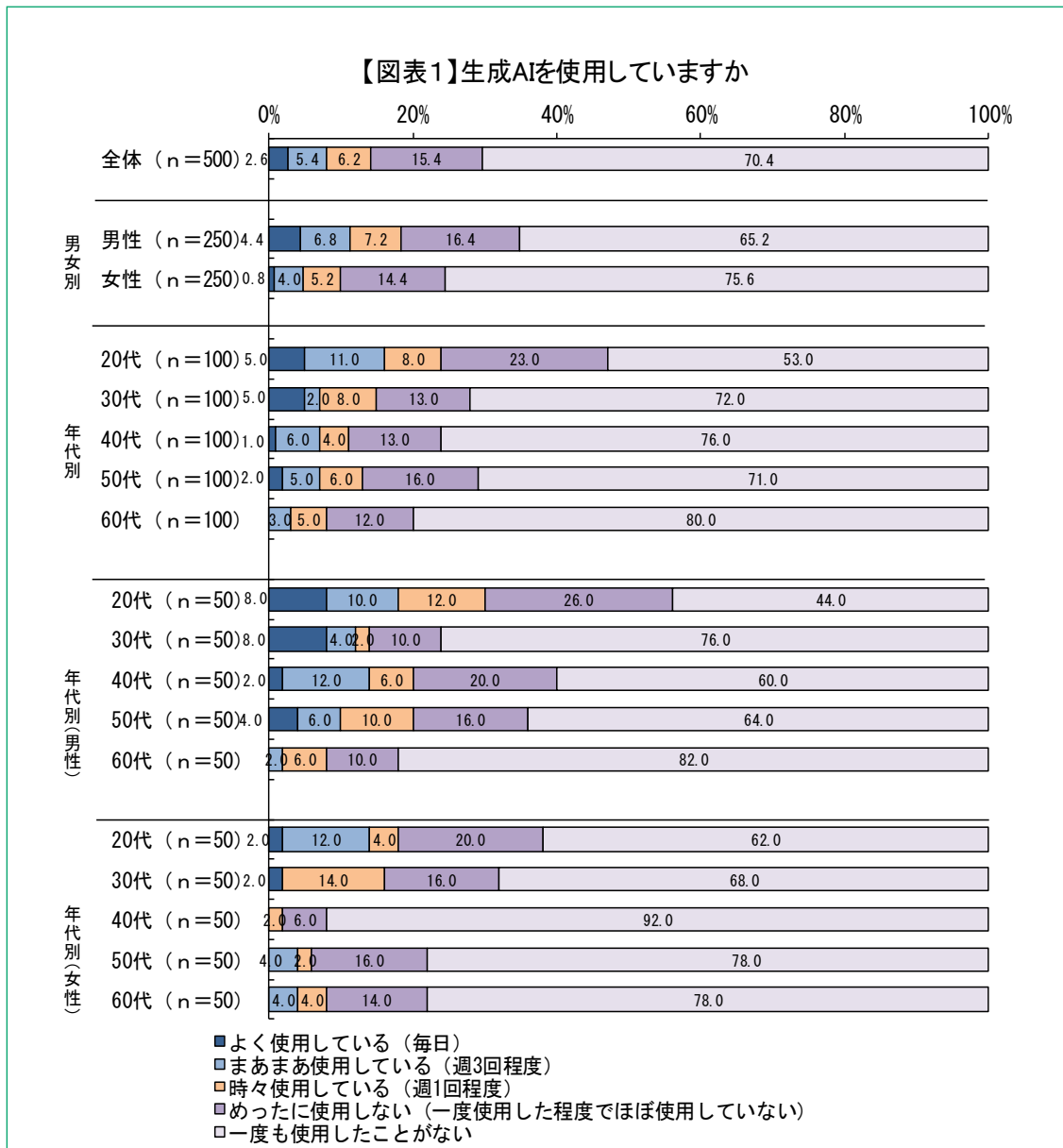
Q1 生成 AI を使用していますか (n=500)

全体の 8 割強がめったに使用しない、一度も使用したことがないと回答 20 代は 2 割超が週 1 回以上使用していると回答

生成 AI の使用状況について、**全体**では「めったに使用しない」が 15.4%、「一度も使用したことがない」が 70.4%と、全体の8割強がほとんど生成 AI を使用していないと回答。ChtGPT が 2022 年 12 月に登場し、2 年超経過したが、現時点では生成 AI を使用しているのは1割強で未だ多くの人々の生活に浸透していないことがわかった。

男女別では、男性は 81.6%、女性は 90.0%が、それぞれ生成 AI をほとんど使用していないと回答した。もっとも、男性は 65.2%が「一度も使用したことがない」と回答した一方、女性は 75.6%が「一度も使用したことがない」と回答するなど、一度使用したことがあるかについては、男女で差がみられた。

年代別では、30 代以上の全ての年代において、7割以上が「一度も使用したことがない」と回答した一方、20 代は5割程度にとどまるなど、他の年代に比べて使用したことがある人の割合が高い傾向に。



Q2 生成 AI の使用目的は【よく使用している、まあまあ使用している、時々使用していると回答した人】（n=71） ※複数回答

日常での問題解決が5割超で最多

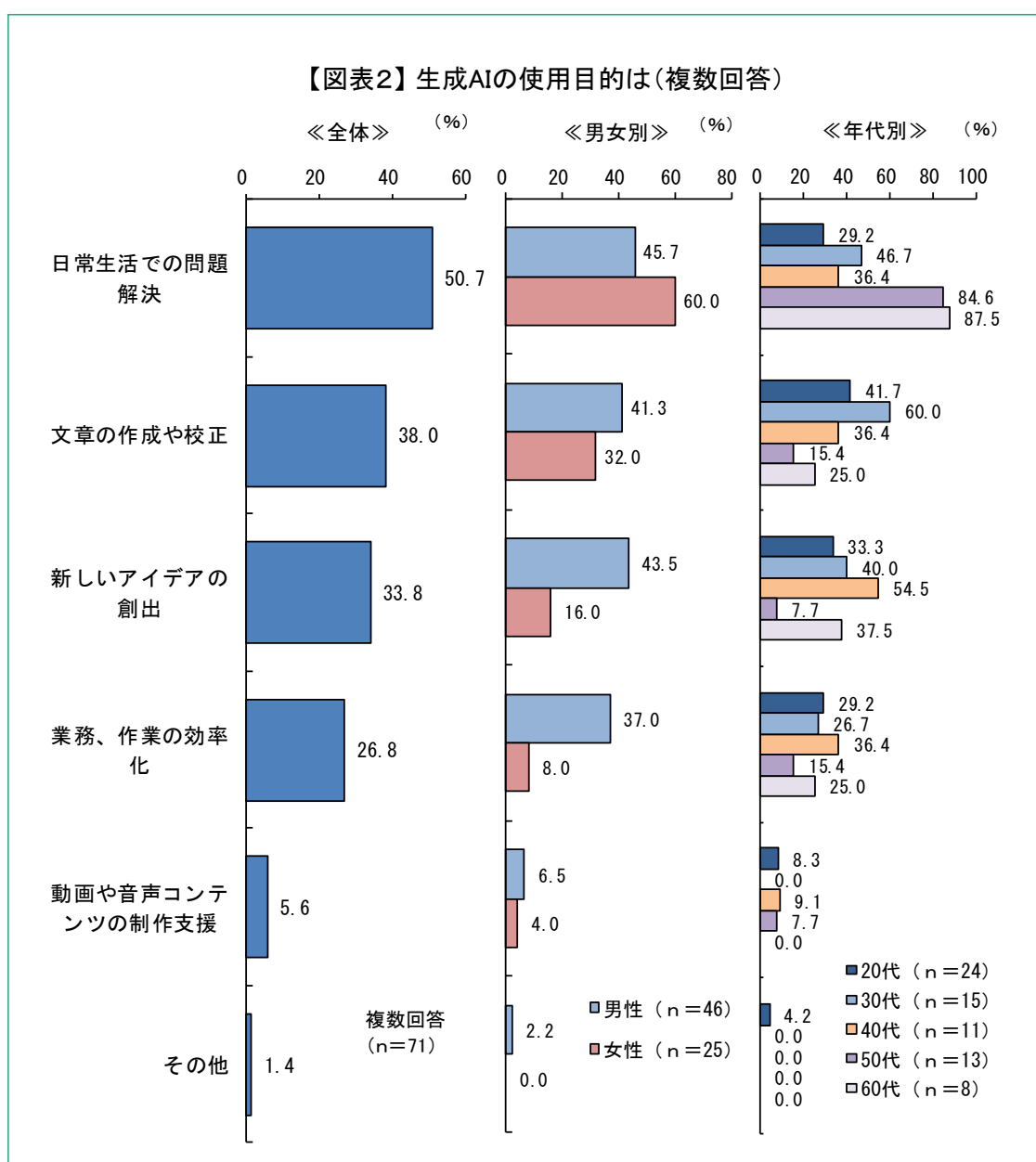
女性は日常生活での問題解決が主、男性は様々な目的で使用

生成 AI の使用目的について、**全体**では「日常生活での問題解決」が 50.7%と最も高く、次いで「文章の作成や校正」が 38.0%、「新しいアイデアの創出」が 33.8%、「業務、作業の効率化」が 26.8%、「動画や音声コンテンツの制作支援」が 5.6%という回答となった。

男女別では、男性は「日常生活での問題解決」、「新しいアイデアの創出」、「文章の作成や校正」、「業務、作業の効率化」がそれぞれ4割前後と幅広く使用している一方、女性は「日常生活での問題解決」が 62.5%と最も高い回答となるなど、男女で使用目的に差がみられる回答となった。

男性はビジネス、プライベート両面で使用している可能性がある一方、女性は主にプライベートで使用されている可能性が示唆される結果となった。

年代別では、20 代から 40 代は「日常生活での問題解決」、「文章の作成や校正」、「新しいアイデアの創出」といった上位3つの選択肢にそれぞれ約3割以上の回答があり、使用目的が多岐にわたっている傾向がみられた一方、50、60 代は「日常生活での問題解決」が8割強の回答が集まる結果となった。

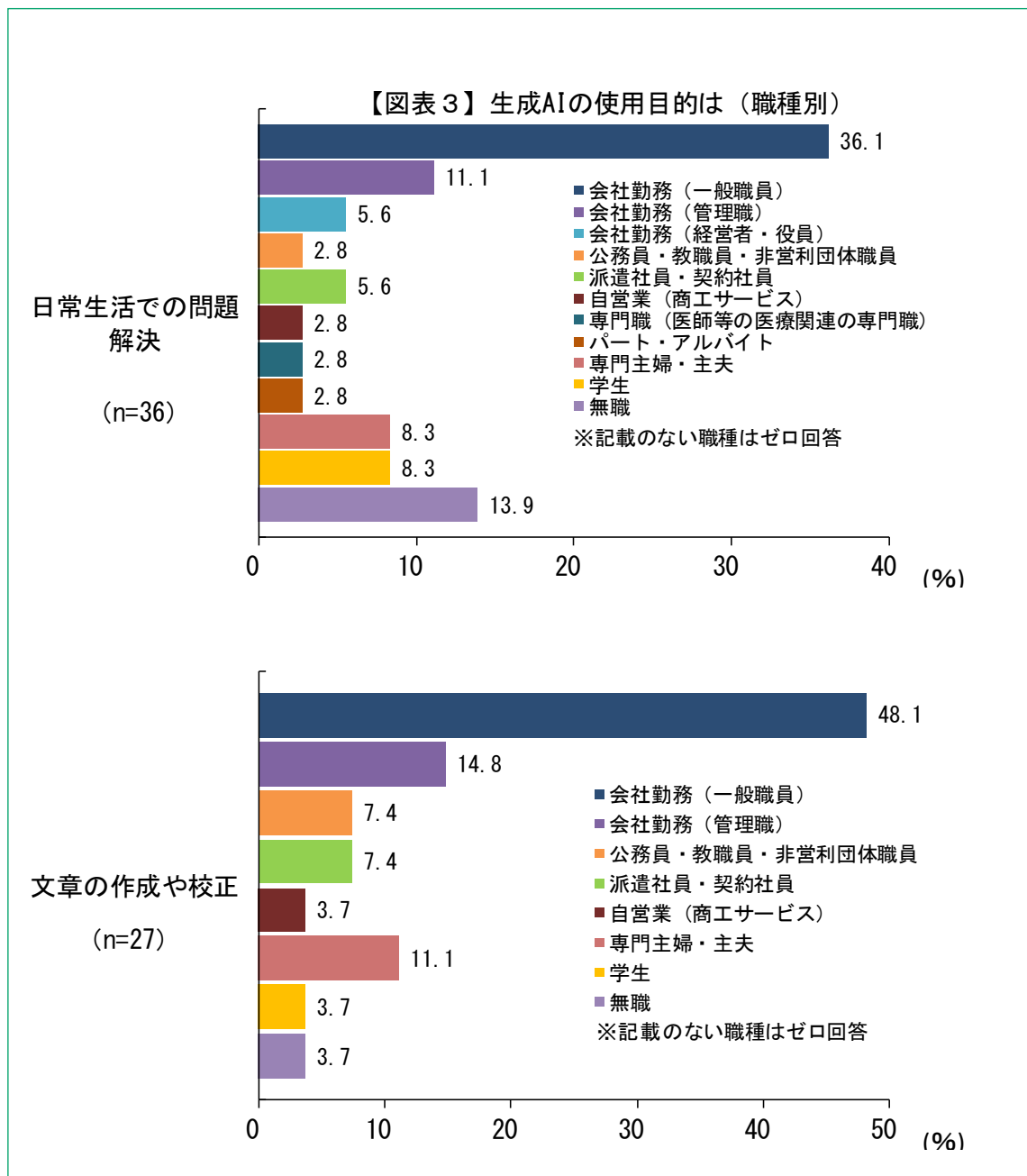


Q2 生成 AI の使用目的を回答した人の職種別割合 (n=71)

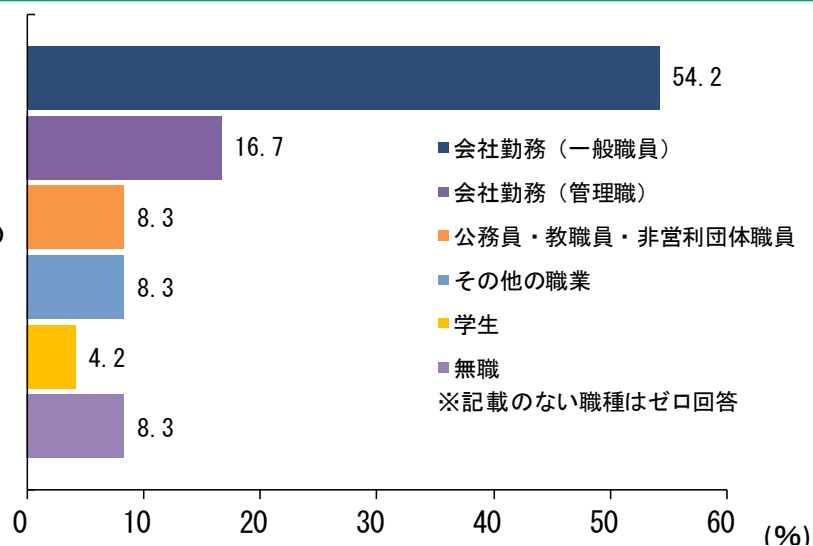
全ての設問で会社員（一般職員）の回答割合が最多に

日常生活での問題解決では幅広い職種で使用されている可能性も

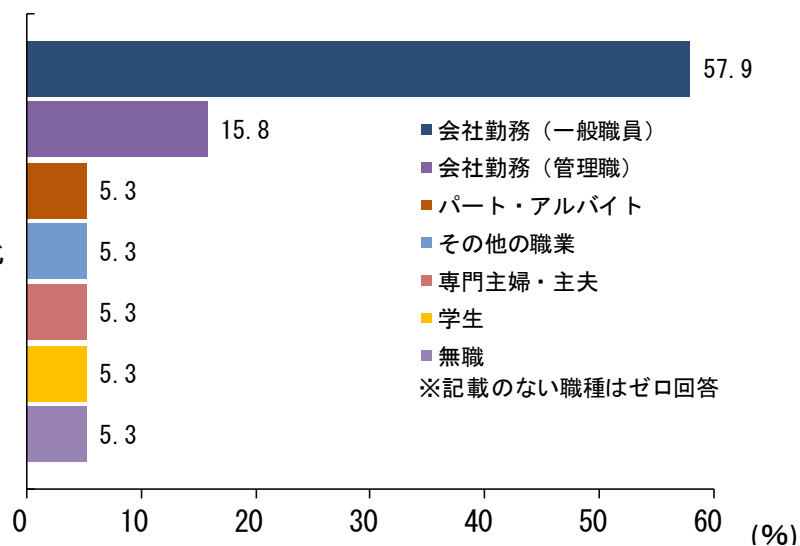
生成 AI の使用目的について、**職種別**で見ると、会社員（一般職員）が「日常生活での問題解決」で 36.1%、「文章の作成や校正」で 48.1%、「新しいアイデアの創出」で 54.2%、「業務、作業の効率化」で 57.9%、「動画や音声コンテンツの制作支援」で 100%とそれぞれ最多の回答割合となった。その他では、会社員（管理職）が各選択肢で 1 割程度の回答となるなど、会社員の間で生成 AI の使用が広がっている可能性が示唆される結果となった。また、「日常生活での問題解決」では、無職や専門主婦・主夫、学生でも 1割前後の回答がみられるなど幅広い職種で使用されていることが分かった。



新しいアイデアの
創出
(n=24)



業務、作業の効率化
(n=19)



動画や音声コンテンツの作成支援 (n=4) n=4 は会社員（一般職員）が 100%

Q3 生成 AI を使用しない理由は【めったに使用しない、一度も使用したことがないと回答した人】(n=429) ※複数回答

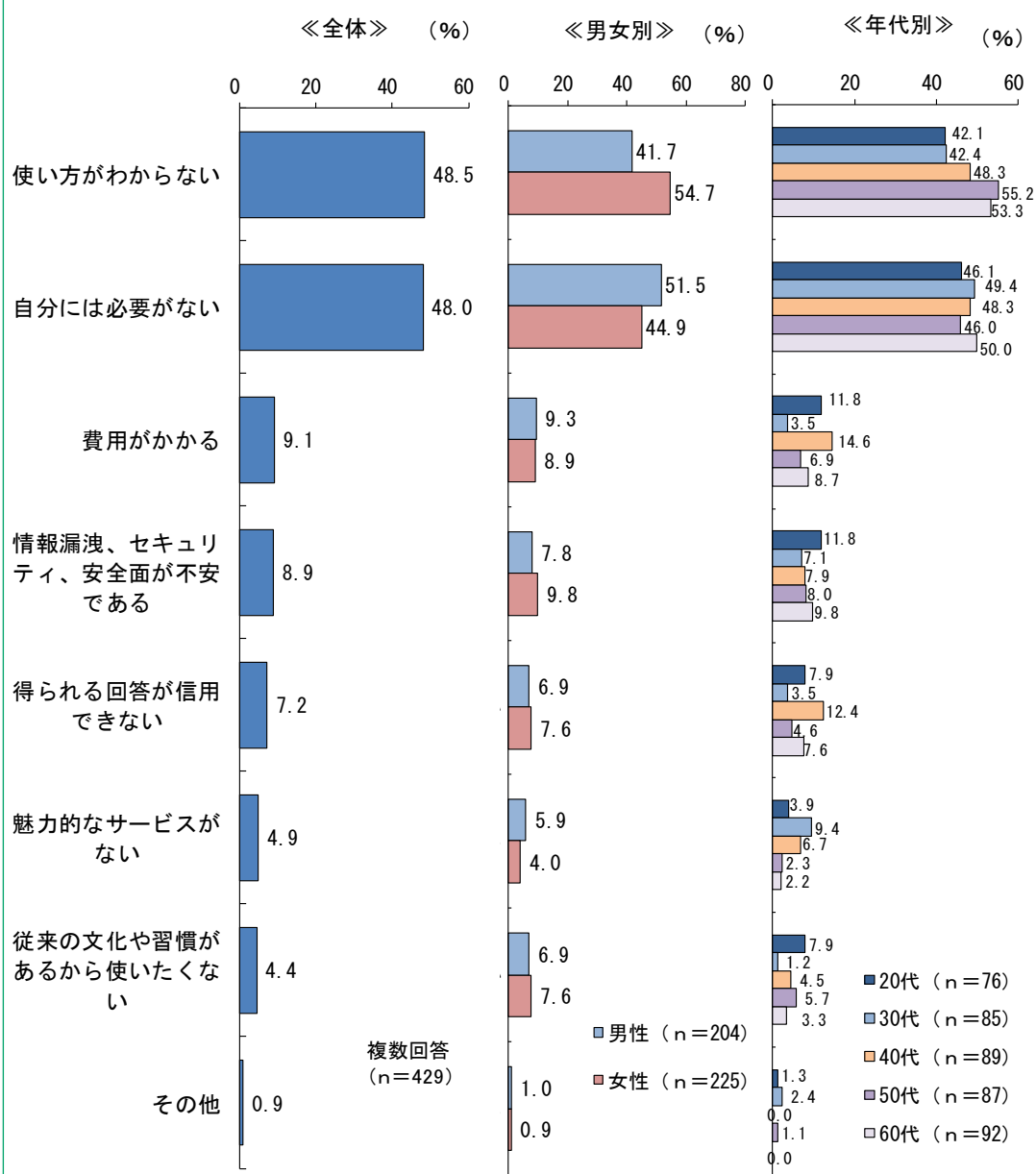
使い方がわからない、自分には必要がないが 5 割弱

生成 AI を使用しない理由について、**全体**では「使い方がわからない」が 48.5%、次いで「自分には必要がない」が 48.0%という結果となった。

男女別では、男性は「自分には必要がない」が 51.5%、女性は「使い方がわからない」が 54.7%とそれぞれ最も高い回答となった。生成 AI を使用しない理由としては、上記2つの選択肢に回答が集まっており、使い方がわからないことや必要性を感じていないことが生成 AI を使用しない大きな理由として考えられることがわかった。

年代別では、小さい誤差はあるものの、男女別と同様に全世代で上位2つの選択肢に回答が集まる結果となった。

【図表4】生成AIを使用しない理由は（複数回答）



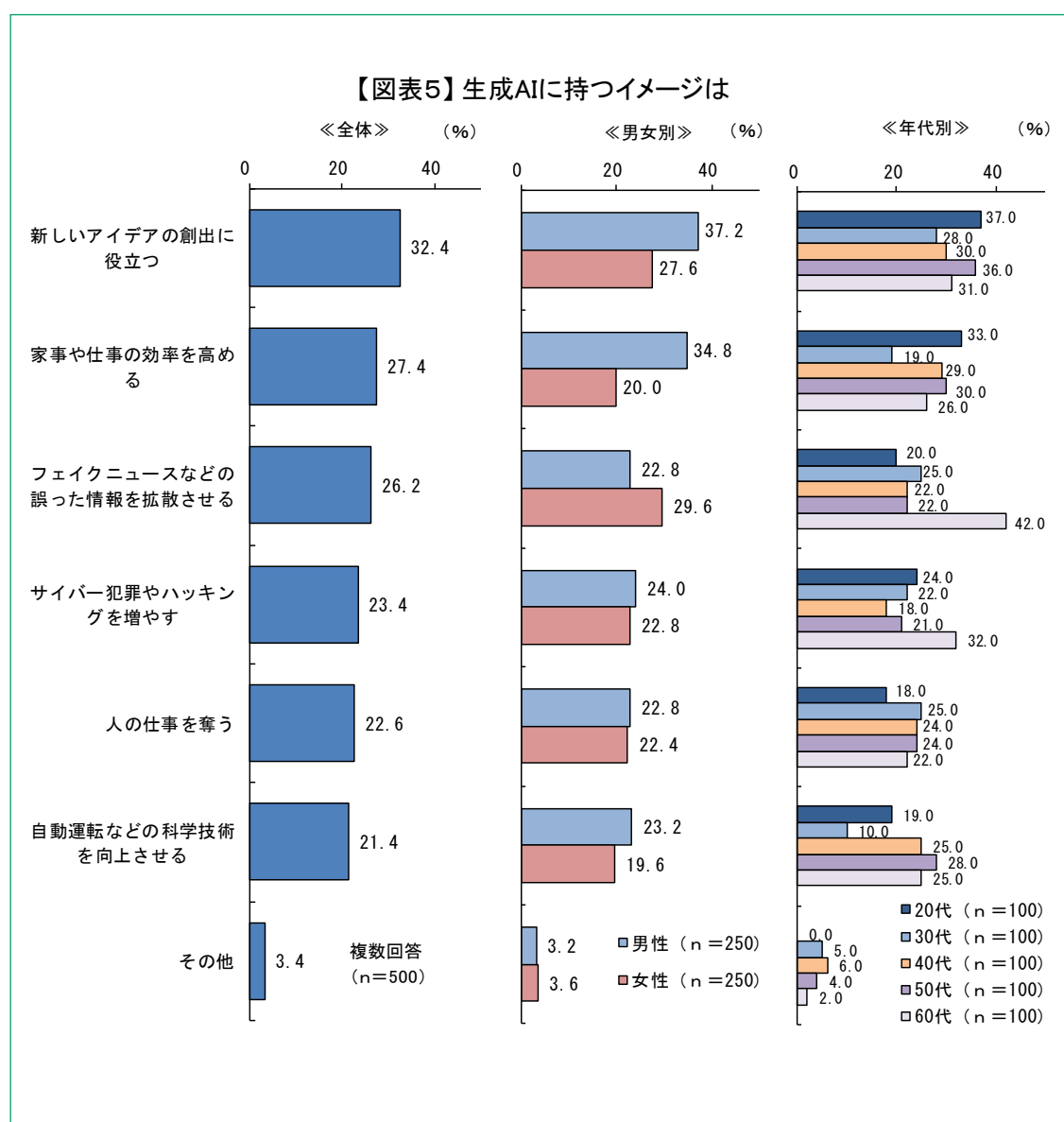
Q4 生成 AI に持つイメージは(n=500) ※複数回答

新しいアイデアの創出に役立つが 32.4%で最も多い回答 年齢によって生成 AI に対するイメージに違いがみられる結果に

生成 AI が持つイメージについて、**全体**では「新しいアイデアの創出に役立つ」(32.4%)が最も高い回答となった。次いで「家事や仕事の効率を高める」(27.4%)、「フェイクニュースなどの誤った情報を拡散させる」(26.2%)という結果となった。もっとも、どの選択肢も2～3割程度と大きな差はなく、生成 AI に持つイメージは個人によって異なる可能性も示唆される結果となった。

男女別では、男性は「新しいアイデアの創出に役立つ」が 37.2%、女性は「フェイクニュースなどの誤った情報を拡散させる」が 29.6%と最も高い回答となった。

年齢別では、20 代は「新しいアイデアの創出に役立つ」、「家事や仕事の効率を高める」といった回答が3割超となった一方、60 代は「フェイクニュースなどの誤った情報を拡散させる」、「サイバー犯罪やハッキングを増やす」といった回答が他の年代と比較して高く、3～4割となった。20 代は生成 AI に対してポジティブな意見を持つ人が多い反面、60 代はネガティブな意見を持つ人が多い傾向が示唆される結果となるなど、年齢によって生成 AI に対してポジティブなイメージを持っているか、ネガティブなイメージを持っているかの違いがみられる結果となった。





【本件に関するお問合せ】

株式会社三十三総研 調査部 古橋 健司
三重県四日市市西新地 10 番 16 号 第二富士ビル 4 階
TEL (059) 354-7102 E-mail : 33ir@33bank.co.jp